

11月28日アナリスト向け決算説明会質疑応答（2019年3月期第2四半期決算）

Q. 第1四半期と第2四半期の営業利益を区切ってみると第2四半期の営業利益が低くなっている。その理由は何か。また、下期は、上期に対してどのような変化が起きているのか。

A. 懸架ばね事業は、第1四半期に対し減益となったが、概ね当初計画並みとなった。

シート事業は、第1四半期に対し減益となったが、当初計画に対して、日本における数量減影響により売上が減少した。また、北米ほか地域の売上は伸びたものの固定費増により営業利益は減少となった。

精密部品事業は、第1四半期に対し数量が弱含みであり減収減益、産業機器ほか事業は、第1四半期並みとなった。

上期に対して下期の状況は、懸架ばね事業は増収も、当初計画に対しては、数量減により減収減益、シート事業は数量増により増益、精密部品事業は、HDD 関連部品の数量減により減益、産業機器ほか事業は、売上は増加するが、主として新工場建設による固定費増により営業利益は上期並みの見込みである。

Q. 北米事業は今後どのような改善をしていくのか。

A. 各事業により改善点は異なる。

懸架ばね事業は、セダン系の販売不振の影響を受けている。これに対しラインの改善、自動化を推進していく。

シート事業は、弊社受注車種の車種構成、離職率上昇に伴う労務費増等により若干苦戦している。これに対し定着率アップ、合理化による固定費削減を図る。

精密部品事業は、生産性向上および合理化を実施していく。

Q. 懸架ばね事業の中計に対して受注動向等、変更点があれば教えてほしい。

A. ハンガリーは、当初計画に対し、受注動向に変更は無い。但し、立ち上げが若干遅れているため、売上は21.3期以降に増加する見込みである。

メキシコは、中計に対し大きく状況が変わっており不透明となっているが、将来的に売上は、増加していく見込みである。

Q. 各事業の上期において固定費が減少した理由について教えてほしい。また、下期の固定費も保守的な計画となっているのか。

A. 懸架ばね事業は、数量減による固定費減である。

シート事業は、上期から下期へ一部固定費の発生にズレが生じた。

精密部品事業は、設備投資の実施時期ズレに伴い減価償却費の発生ズレが生じたが、当初計画に対しHDD関連の数量増により固定費が増え、精密部品事業全体では固定費が増加した。

産業機器ほか事業は、設備投資の実施時期ズレに伴う減価償却費の発生ズレ、各国内子会社における固定費の抑制、上期から下期への固定費発生ズレ等により固定費が減少した。

各事業において、下期は概ね修正計画通りの見込みである。

- Q. シート事業の利益率が現状 2%であるが、複合的な要素により利益率が落ちていることは理解するが、御社のベースとなる収益力が悪化しているという認識はあるか。
- A. シート事業は、車種ごとに利益率が大きく異なる。収益力が悪化しているというよりも弊社の収益性の高い受注車種の生産台数が減少している。

以上